

夏休みを前に - 学ぶとき、幸福のとき -

森 田 雅 也

わたしは知った
人間にとって最も幸福なのは
喜び楽しんで一生を送ることだ、と。
人だれもが飲み食いし
その労苦によって満足するのは
神の賜物だ、と。
『コヘレトの言葉 3 . 1 2 ~ 1 3 』

学生の皆さんに「夏休み」という語の印象を聞けば、多くの人が夏の「授業がない」、「学業から解放される」期間などと答えてくれるでしょう。その答えは間違っていない。

しかし、我々教員にとっては、やっと研究に専念できるという喜びの期間なのです。

我々教員は日頃、研究者であるとともに大学教育、大学行政を担っています。二足のワラジどころか、三足の八咫鳥(やたがらす)、鼎(かなえ)の体なのです。

その三つの中から、夏休みは研究、すなわち「学び」だけをする人、つまり「学生」になれるのです。これに勝る喜びはありません。夏休みになったら、あれを調べよう、これを読もう、あの人に教えてもらおう、あそこを見てこようと、今からワクワクしています。

ところで、私のいう「学ぶ」とは何も自らの研究テーマだけではありません。むしろ研究テーマから離れたところにこそ「学ぶ」楽しさがあるのです。

例えば、誰が『甲山』と呼んだのか、いつから『本』という言葉があるのか、なぜ日本の犬の鳴き声は『ワン、ワン』なのか、どうして田淵先生は太らないのか。

このように「学ぶ」というのは学問ではなく、すべて好奇心なのです。皆さんがこの夏、アルバイトするのも免許をとるのも留学するのも旅行するのもすべて「学び」なのです。

この夏、学生諸君と同様、私も学生です。学びの競争をしませんか。そして、夏休みが終わったとき、互いに満足な顔で、この神からの賜り物を自慢しようではありませんか。

「夏休みは暑いからお休み。ゴロゴロしたい。」と言っているあなた。悪魔があなたの名前を『DEBU NOTE』に書きますよ。かく言う私、とある夏の被害者なのですから。

(文学部教授)

ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:00~8:20 於:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
7月7日(金) 夏休みを前にして 川島恵美
総合政策学部早天祈祷会 毎水曜日 午前8:40~ 於 I号館312教室
